2018年度決算説明会

～2018年度決算および当行の戦略～

（東証第１部：8544）

2019年6月6日

確かな“きずな”を、未来へ。

株式会社 京葉銀行

目次

Ⅰ．業績の概要

・2019年3月期決算概要（単体） 3
・資金利益 4
・貸出金・預金 5
・業種別貸出金残高 6
・有価証券運用 7
・役務取引等利益 8
・経費・与信費用・自己資本 9
・2020年3月期計画（単体） 10

Ⅱ．個別戦略

・貸出金・預金 12
・中小企業向け貸出 13
・ソリューションビジネス 14
・住宅ローンビジネス 15
・資産形成ビジネス・相続ビジネス 16
・オムニチャネル戦略 17
・人財戦略 18
・構造改革 19

Ⅲ．企業価値の向上に向けて

・資本政策 21
・ＥＳＧ・ＳＤＧｓ①（環境） 22
・ＥＳＧ・ＳＤＧｓ②（社会・地方創生） 23
・ＥＳＧ・ＳＤＧｓ③（ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ） 24

Ⅳ．第１８次中期経営計画

・第１８次中期経営計画の概要 26
・主要計数の進捗 27
・経営方針の基本スタンス 28
・京葉銀行の強み 29

Ⅰ．業績の概要

2019年3月期決算概要（単体）

（億円）

		18/3		19/3	
			対17/3		対18/3
1	業務粗利益	559	△32	541	△17
2	資金利益	487	△11	478	△9
3	役務取引等利益	64	2	69	4
4	その他業務利益	7	△23	△5	△13
5	うち国債等債券損益	2	△23	△11	△13
6	経費	375	△4	367	△7
7	実質業務純益	184	△27	174	△9
8	コア業務純益	182	△4	185	3
9	一般貸倒引当金繰入額	3	0	9	6
10	業務純益	180	△28	164	△15
11	臨時損益	△6	29	△11	△4
12	うち不良債権処理額	9	△18	48	39
13	うち株式等関係損益	21	12	51	29
14	経常利益	173	1	153	△20
15	特別損益	△1	3	△2	△0
16	当期純利益	120	4	105	△15
17	実質与信関連費用	13	△17	58	45

業務粗利益・コア業務純益

■業務粗利益は、17億円減少し541億円。
- ➢資金利益は、貸出金利息が増加した一方、有価証券利息配当金の減少等により9億円減少し478億円。
- ➢役務取引等利益は、ｿﾘｭｰｼｮﾝ関連収益が好調で4億円増加し69億円。
- ➢その他業務利益は、有価証券の売却損等により13億円減少し△5億円。

■経費は、物件費の見直し等により7億円減少し367億円。
■実質業務純益は、9億円減少し174億円。
■コア業務純益は、3億円増加し185億円。

経常利益・当期純利益

■実質与信関連費用は、個別貸倒引当金繰入額の増加等により45億円増加し58億円。
■経常利益は、20億円減少し153億円。
■当期純利益は、15億円減少し105億円。

資金利益

■貸出金は利回りの低下が続くも、残高増加でカバー

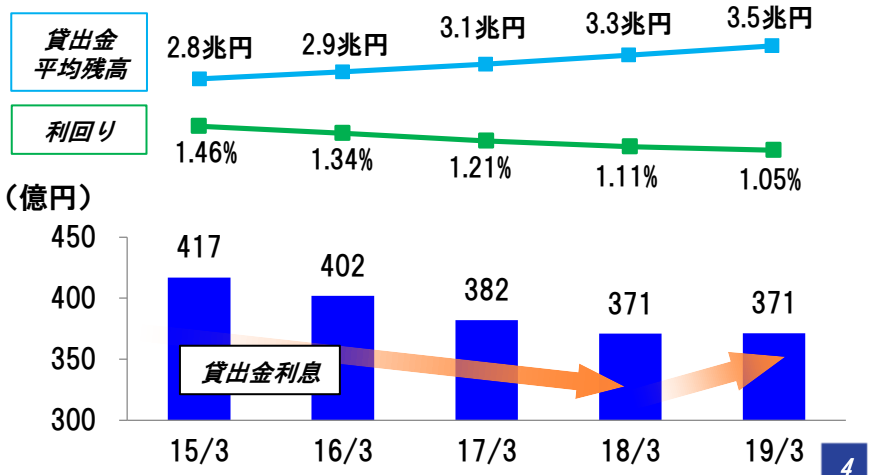
資金利益

（億円）

		18/3	対17/3	19/3	対18/3
1	資金運用収益	496	△13	486	△9
2	貸出金利息	371	△10	371	0
3	有価証券利息配当金	119	△3	109	△10
4	（債券）	(89)	(△8)	(81)	(△7)
5	（株式）	(20)	(1)	(20)	(0)
6	（その他の証券）	(10)	(3)	(7)	(△2)
7	預け金利息	4	△0	4	△0
8	資金調達費用	8	△2	8	△0
9	預金等利息	5	△2	5	△0
10	債券貸借等支払利息	3	0	3	0
11	資金利益	487	△11	478	△9

増減要因

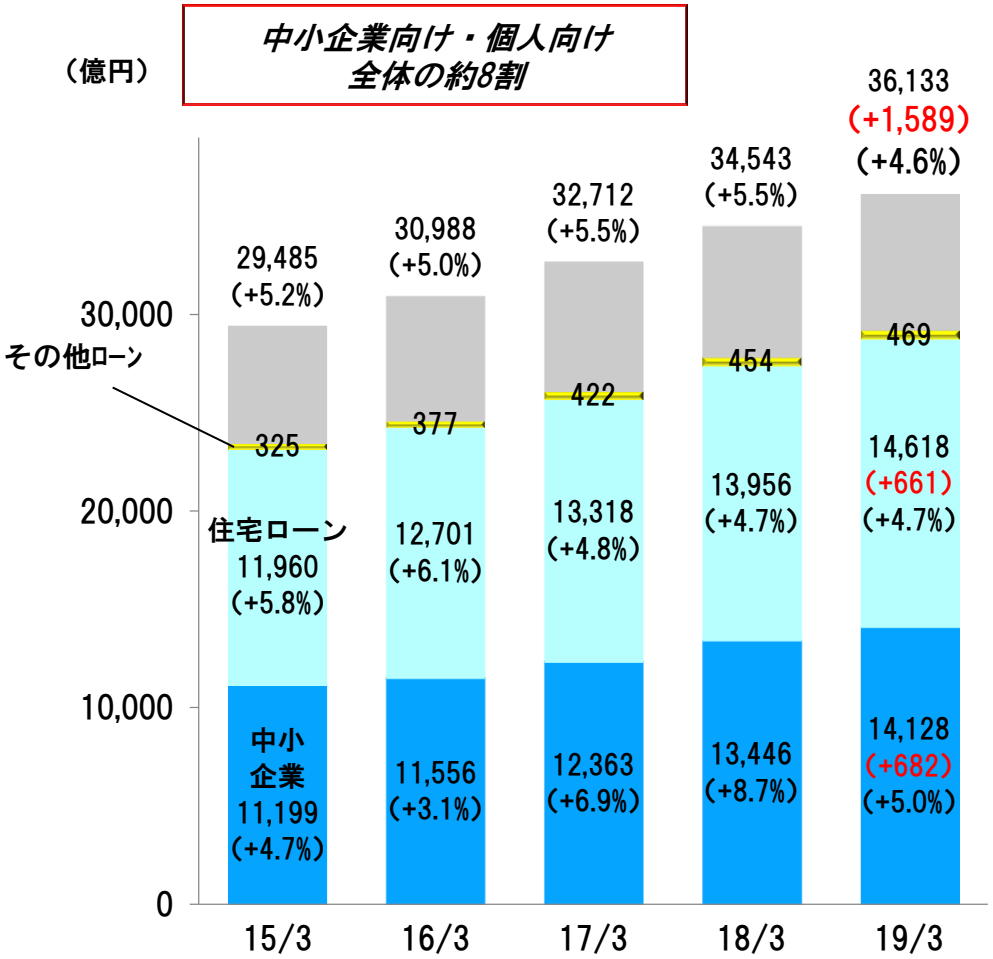
貸出金利息



貸出金・預金

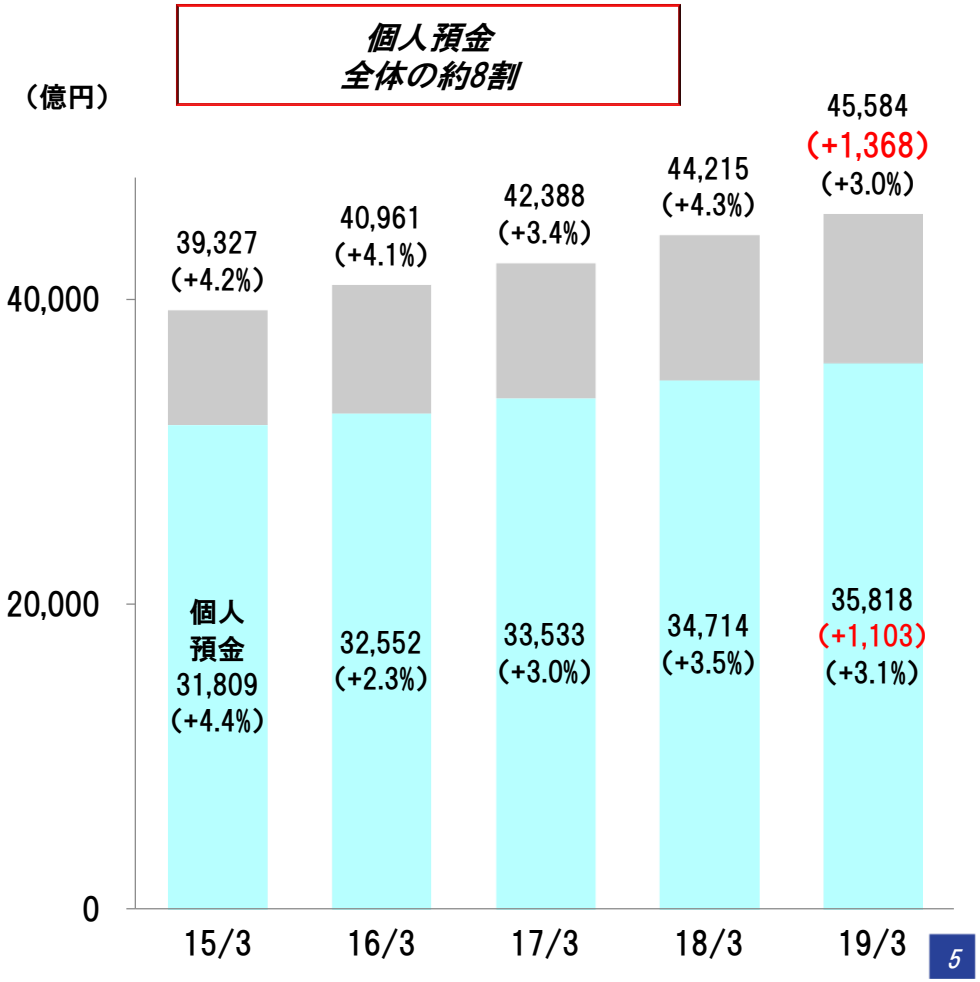
■貸出金は中小企業、個人向けともにバランスよく増加

貸出残高



※（　）内は対前期増加額及び, 増加率

預金残高



業種別貸出金残高

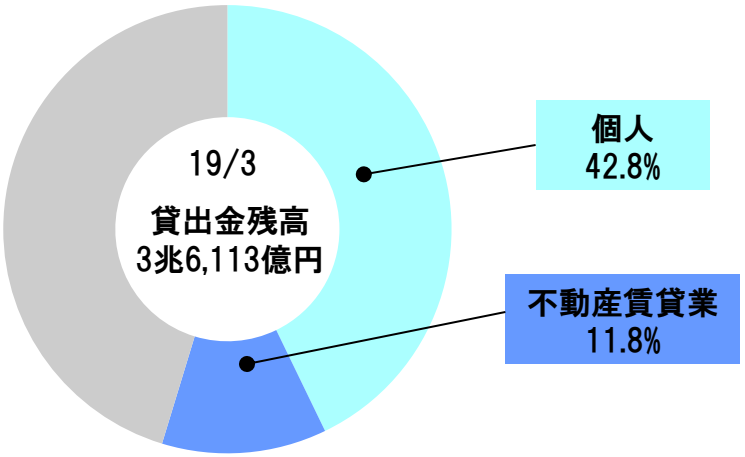
■貸出金は個人が中心に増加

業種別貸出残高

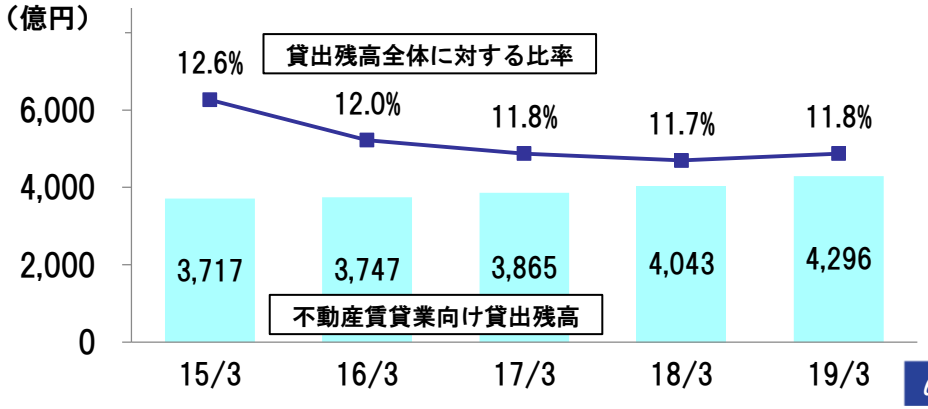
（億円）

		18/3	19/3		
				対18/3	増加率
1	貸出金合計	34,543	36,113	1,589	4.6%
2	製造業	2,143	2,298	154	7.1%
3	建設業	2,004	2,170	166	8.3%
4	卸売業、小売業	2,587	2,547	△40	△1.5%
5	金融業、保険業	1,113	1,030	△83	△7.4%
6	不動産業	5,456	5,860	403	7.4%
7	（うち不動産賃貸業）	(4,043)	(4,296)	(253)	(6.2%)
8	物品賃貸業	788	861	73	9.2%
9	各種サービス業	2,894	2,980	86	2.9%
10	国・地方公共団体	1,194	1,247	53	4.4%
11	個人	14,750	15,473	723	4.9%
12	その他	1,609	1,662	52	3.2%

業種別貸出金の構成比



不動産賃貸業向け貸出の状況



有価証券運用

■機動的な銘柄の入れ替えを実施

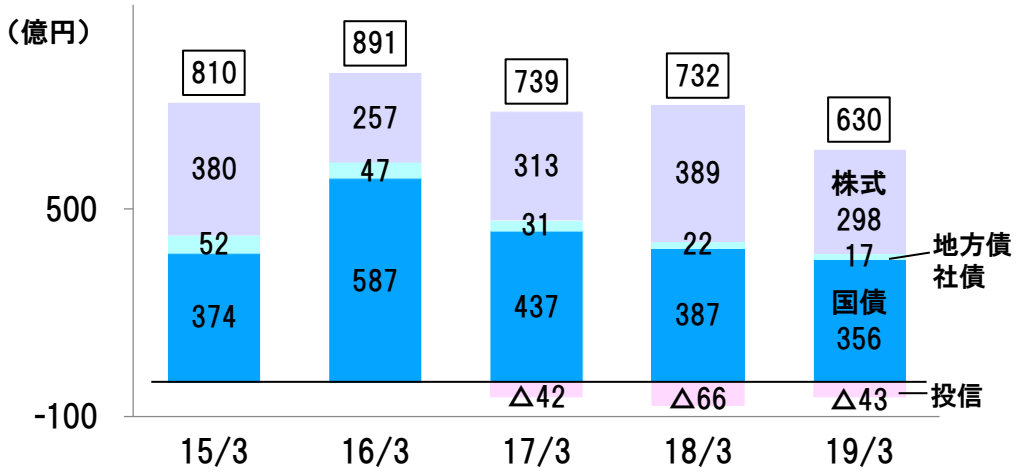
有価証券残高

（億円）

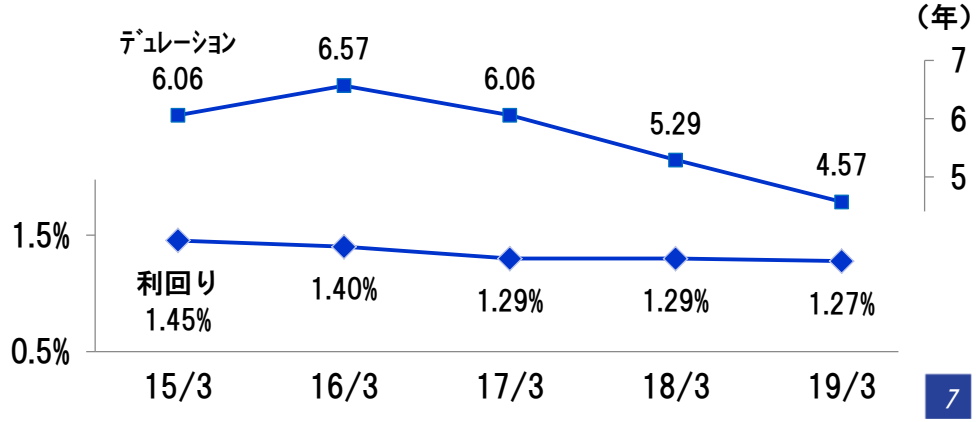
		18/3	19/3	対18/3
1	有価証券残高	8,690	8,389	△301
2	国債	5,709	5,769	59
3	地方債・社債	934	780	△153
4	株式	519	494	△24
5	外債	424	441	17
6	投資信託	1,100	900	△200

※償却原価ベース

有価証券評価損益



有価証券利回りと円貨デュレーション



役務取引等利益

■ソリューション関連手数料の増加が大きく寄与

役務取引等利益

（億円）

		18/3	19/3	対18/3
1	役務取引等収益	101	108	6
2	受入為替手数料	23	23	0
3	ソリューション関連収益	5	12	6
4	金融商品手数料	34	32	△1
5	その他受入手数料	38	39	1
6	役務取引等費用	37	39	2
7	支払為替手数料	5	5	△0
8	団信保険料	19	20	1
9	その他支払手数料	13	13	0
10	役務取引等利益	64	69	4

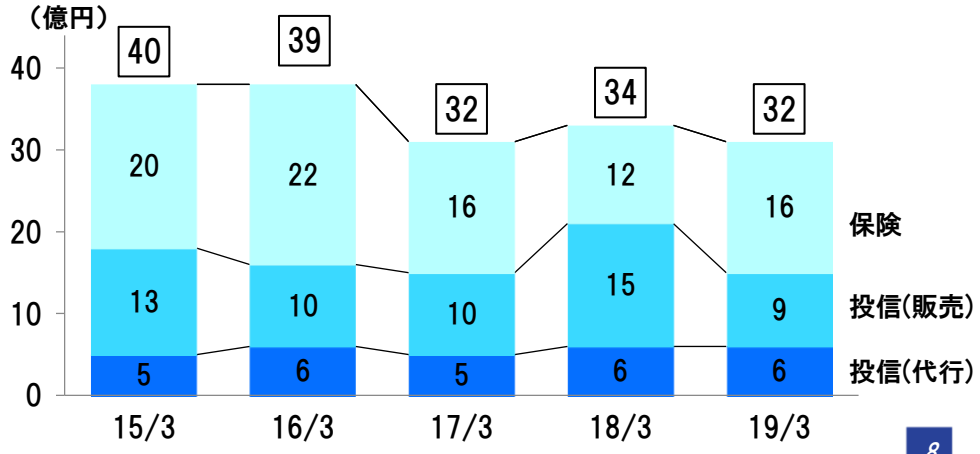
ソリューション関連収益の内訳

（億円）

		18/3	19/3	対18/3
1	ソリューション関連収益	5.4	12.0	6.5
2	与信関連収益	0.6	7.4	6.8
3	ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏｯﾁﾝｸﾞ	3.9	3.2	△0.7
4	その他※	0.9	1.3	0.4

※相続関連手数料、法人向け生損保、火災保険等

金融商品手数料の内訳



経費・与信費用・自己資本

■経費減少、与信費用増加、自己資本比率は高水準で推移

経費

（億円）

		18/3	19/3	対18/3
1	経費	375	367	△7
2	人件費	176	174	△2
3	物件費	170	166	△3
4	税金	28	26	△1
5	OHR	67.32%	66.44%	△0.88%

与信費用

（億円）

		18/3	19/3	対18/3
1	実質与信関連費用	13	58	45
2	一般貸倒引当金	3	9	6
3	個別貸倒引当金	5	39	34
4	その他	4	8	4
5	開示債権比率	1.33%	1.16%	△0.17%

自己資本

＜国内基準・単体＞

（億円）

		18/3	19/3	対18/3
1	コア資本に係る基礎項目	2,490	2,570	80
2	コア資本に係る調整項目（△）	25	40	15
3	自己資本	2,465	2,529	64
4	リスク・アセット等	22,500	23,458	958
5	自己資本比率	10.95%	10.78%	△0.17%
6	ROE（当期純利益ベース）	4.22%	3.61%	△0.61%
7	ROA（当期純利益ベース）	0.24%	0.20%	△0.03%

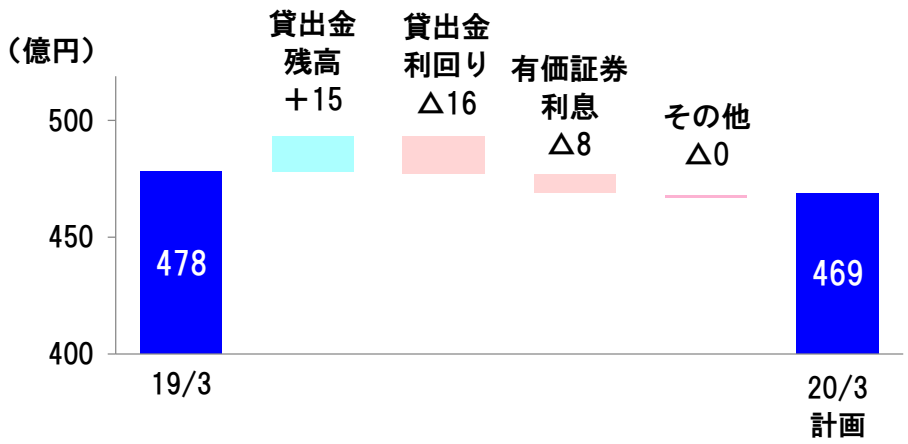
2020年3月期計画（単体）

■信用リスクのコントロールにより、増益の計画

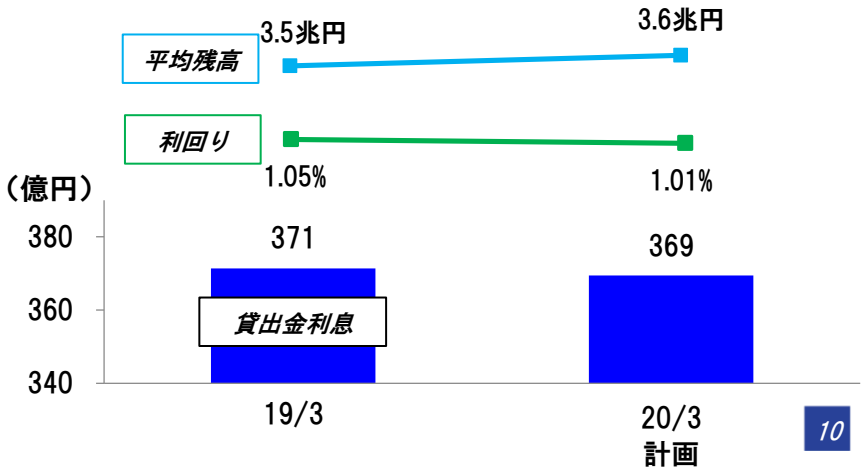
（億円）

		19/3	対18/3	20/3計画	対19/3
1	業務粗利益	541	△17	545	4
2	資金利益	478	△9	469	△9
3	役務取引等利益	69	4	68	△1
4	その他業務利益	△5	△13	8	13
5	うち国債等債券損益	△11	△13	3	14
6	経費	367	△7	369	2
7	実質業務純益	174	△9	176	2
8	コア業務純益	185	3	173	△12
9	一般貸倒引当金繰入額	9	6	6	△3
10	業務純益	164	△15	170	6
11	臨時損益	△11	△4	△15	△4
12	うち不良債権処理額	48	39	24	△24
13	うち株式関係損益	51	29	27	△24
14	経常利益	153	△20	154	1
15	特別損益	△2	△0	0	2
16	当期純利益	105	△15	107	2
17	実質与信関連費用	58	45	30	△28

資金利益増減要因



貸出金の想定

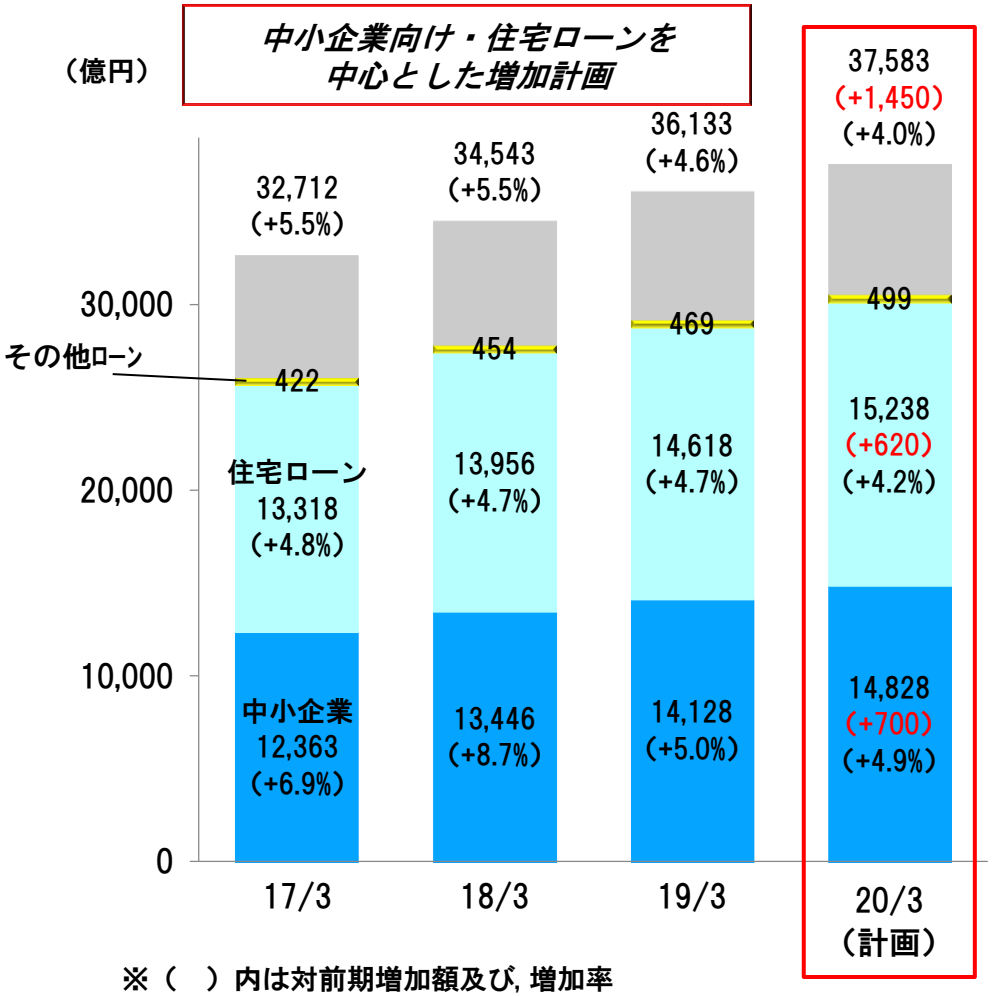


Ⅱ． 個別戦略

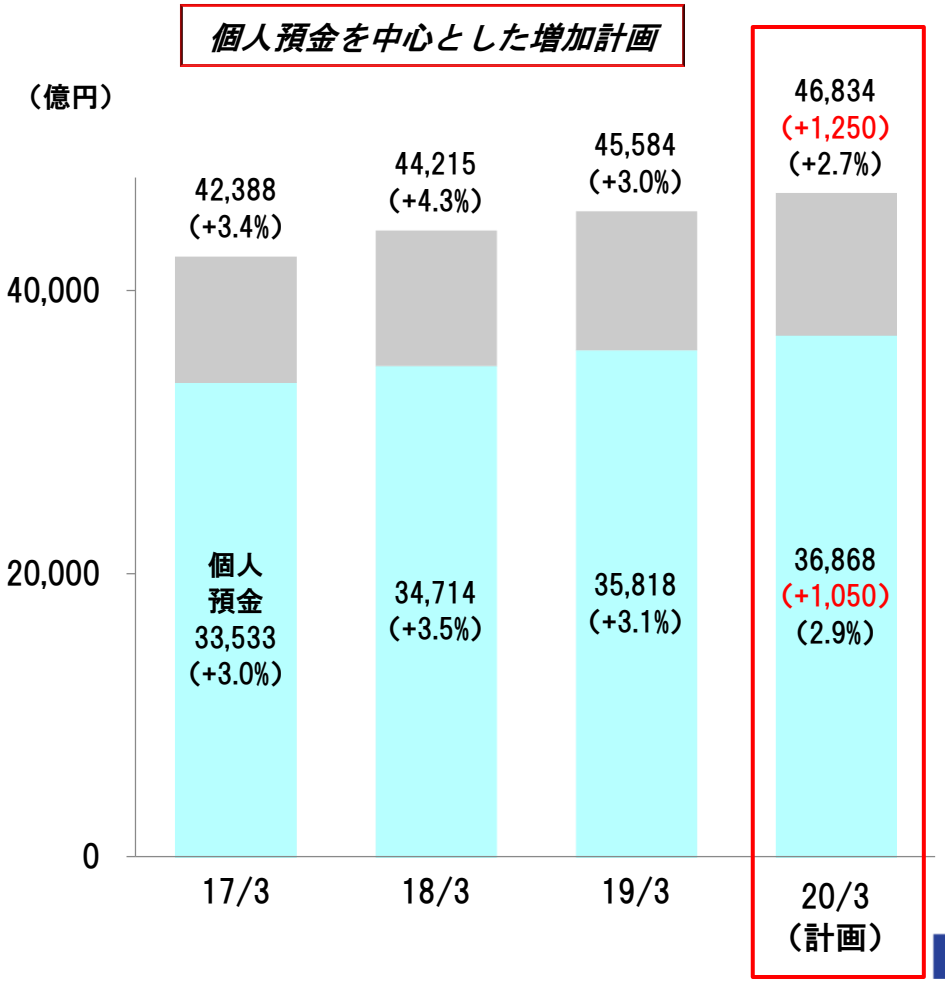
貸出金・預金

■中小企業向け・住宅ローンを中心とした貸出増加を計画

貸出残高の計画



預金残高の計画

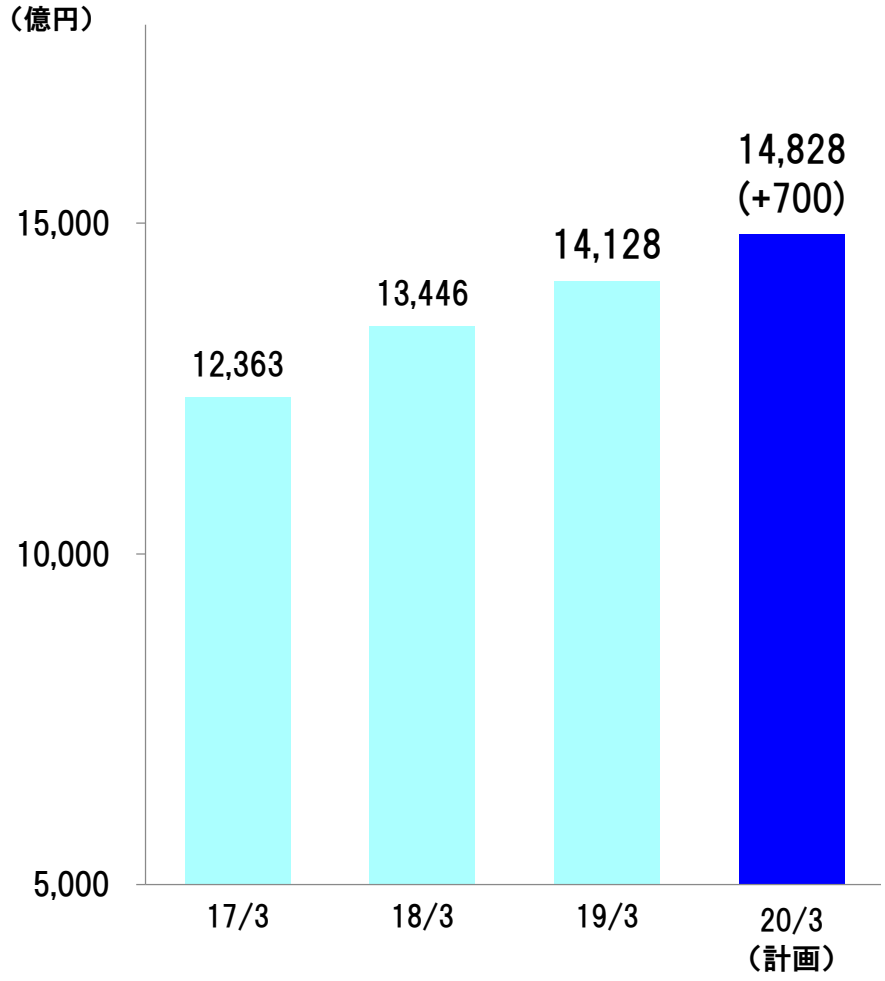


※（　）内は対前期増加額及び, 増加率

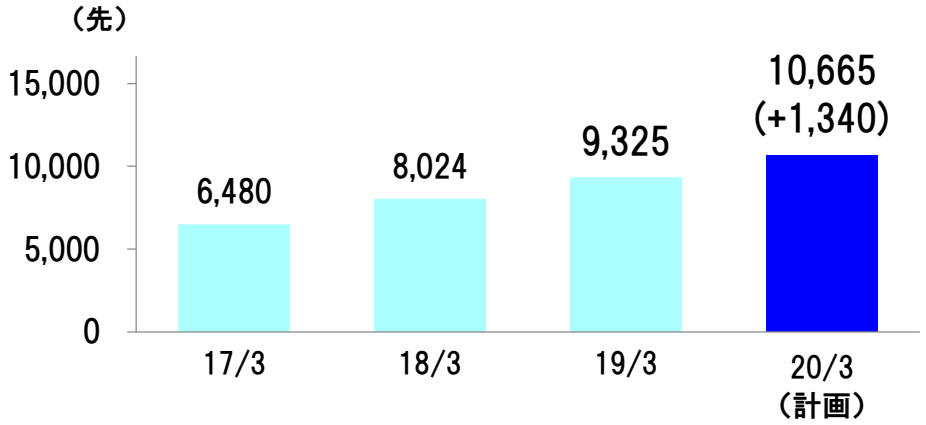
中小企業向け貸出

■事業性評価に基づき資金ニーズを発掘

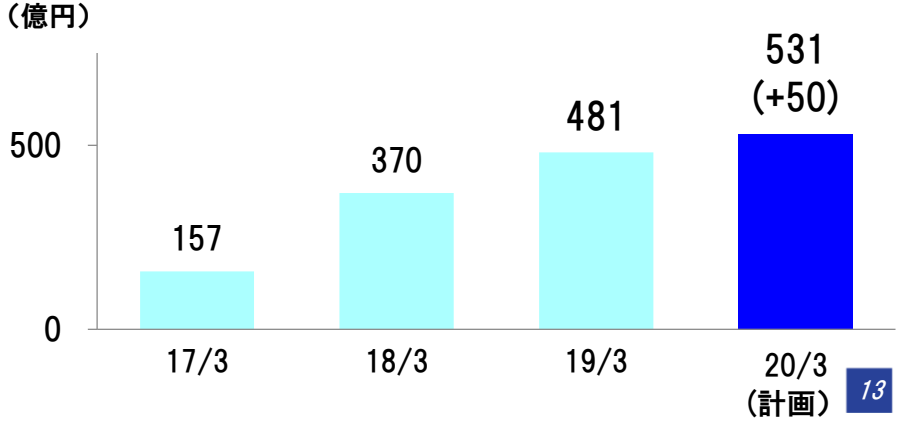
中小企業向け貸出残高



事業性評価を実施している与信先数



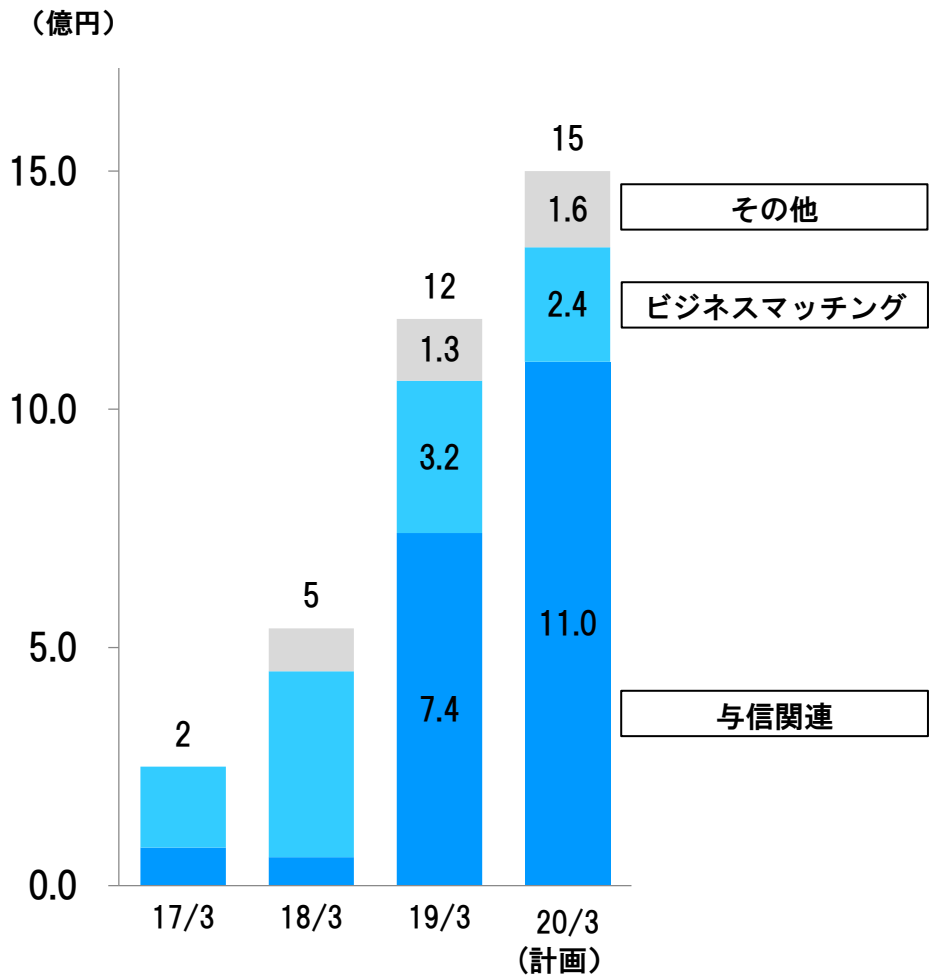
都内中小企業向け貸出



ソリューションビジネス

■ソリューションメニューの拡充により、収益を拡大

ソリューション関連収益



ＮＴＴ東日本との業務提携

首都圏 金融機関 初

2019年1月、ＮＴＴ東日本とＩＣＴ活用支援に向けて業務提携しました

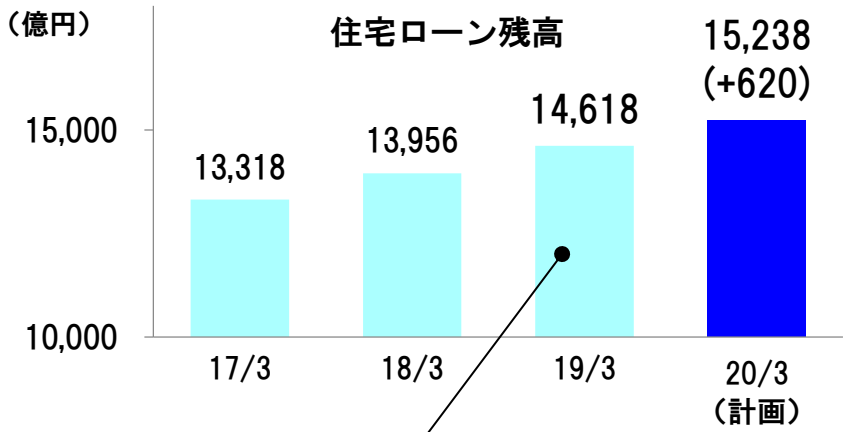
ｷｬﾋﾟﾀﾙ＆ｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞ会社の設立

会社名	株式会社京葉銀キャピタル＆コンサルティング
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港５－４５
資本金	５，０００万円
株主	京葉銀行（１００％）
設立	２０１９年４月１日
主な業務	投資事業有限責任組合の運営業務 経営コンサルティング業務 Ｍ＆Ａ業務

住宅ローンビジネス

■住宅ローンを入口に生涯取引を獲得

取引基盤の拡大



住宅ローン取引先	内その他ローン利用先
71,541先	9,861先（13.8%）

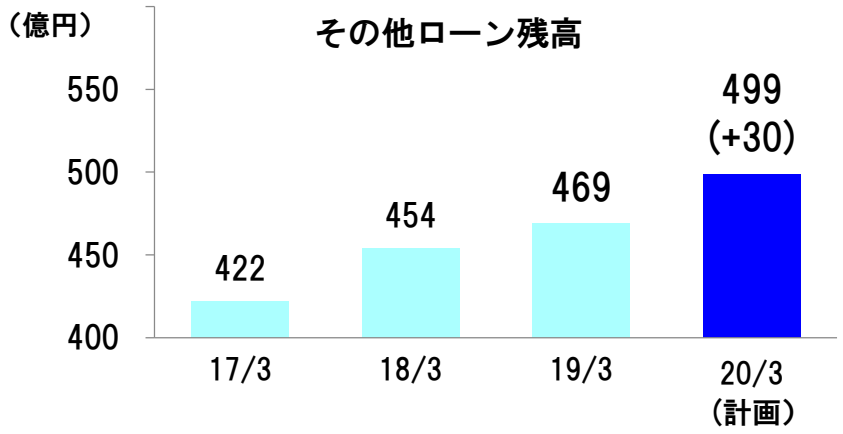
家計のメイン取引へ

- 給与振込
- 資産形成
- 目的別ローン
- 相続
- 退職・年金
- 被相続

付帯取引による収益　17億円（対前年1億円増加）

付加価値の拡大

借り方の多様化	フリー住宅ローン	住宅・マイカー・教育資金をまとめて借換え可能
	住宅リバースローン	シニア層の住宅資金ニーズに対応
利用者限定の特典	特典フリーローン	住宅ローン利用者だけの低金利
	契約者専用カードローン	住宅ローンと同時審査で急な資金需要に利用可能



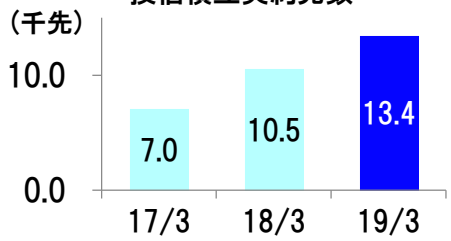
資産形成ビジネス・相続ビジネス

■若年層・シニア層へのコンサルティングを強化

若年層への資産形成ビジネス

◆お客さま本位のコンサルティングの実践
◆お客さまへの情報提供の充実
◆多様なニーズにお応えする商品ラインアップの整備
◆お客様の目的を実現するための態勢の構築

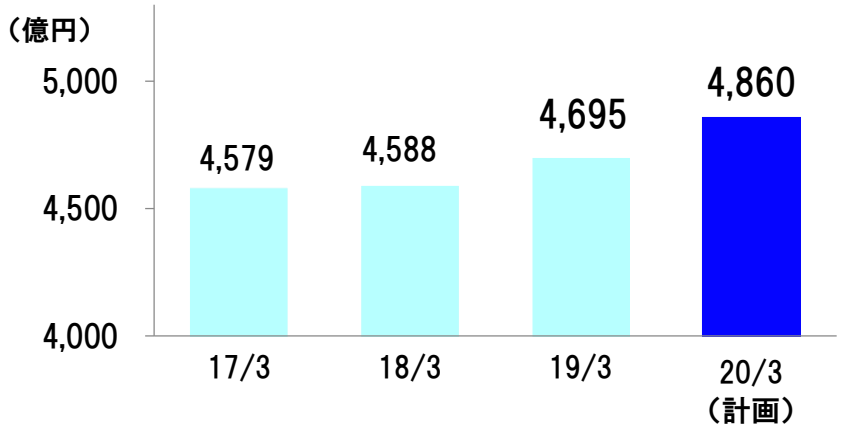
投信積立契約先数



資産運用ｾﾐﾅｰの実施状況
（2019年3月期）

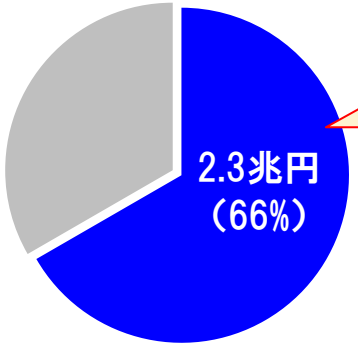
回数	参加者
608回	4,337名

個人預かり資産（投資信託・保険商品・公共債）



シニア層への相続ビジネス

当行の60歳以上顧客の預金残高割合



次世代への
資産移転を
サポート

18/5～	19/4～
相続定期預金	家族信託

相続相談者専用定期預金

1,398先
受付額　51.8億円

相続資金専用定期預金

752先
受付額　93.7億円

◆家族信託口座の開設
◆信託契約に基づく融資
◆信託契約書作成の専門家紹介

オムニチャネル戦略

■ＩＣＴを活用し、お客さまに高い利便性を提供

オムニチャネルの強化

対面

ＩＣＴを活用した次世代型店舗

スムーズな手続きで相談時間を捻出

コンサルティングの充実

高度なｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞを提供できる態勢の構築

預金・決済

融資・資産運用

いつでも・どこでも便利で安心・快適なサービス

当行アプリ

ｷｬｯｼｭﾚｽ決済

pring / PayPay / Edy / LINE Pay

資産管理

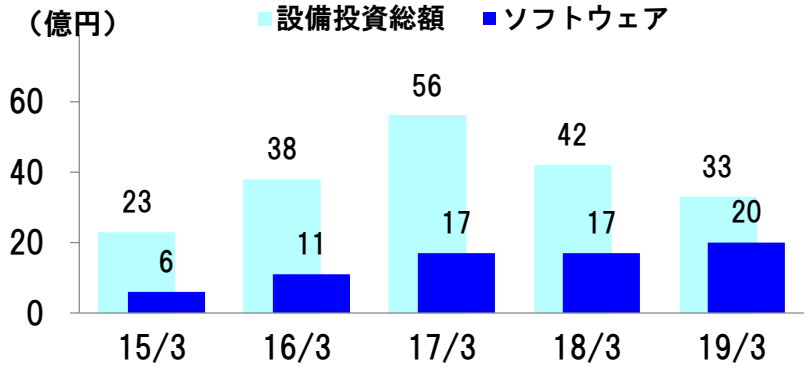
Money Forward / Moneytree / zaim

非対面完結ローン

ＡＰＩ等を活用し、フィンテック企業と連携によりサービス拡大

非対面

設備投資の状況



※千葉みなと本部の投資を除く

キャッシュレス化への対応

19/4
メルペイ
連携開始

京葉銀行 → 即時振替

19/5
Origami Pay
連携開始

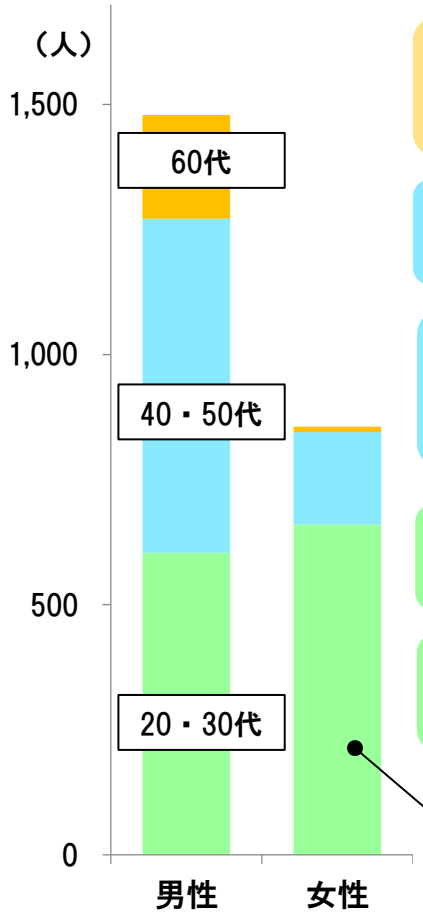
京葉銀行 → 即時振替

人財戦略

■従業員のスキルと満足度を向上

従業員の能力開発

＜当行従業員の年代構成＞



➢シニアスタッフ行員制度の新設
（経験のある行員を70歳まで継続雇用）

➢管理職向け多面評価の開始

➢Ｔｈａｎｋｓｶｰﾄﾞの導入
（褒める文化の醸成）

e-ラーニングの刷新

資格取得に向けた選抜研修
（ＦＰ１級取得に向けて行員を選抜）

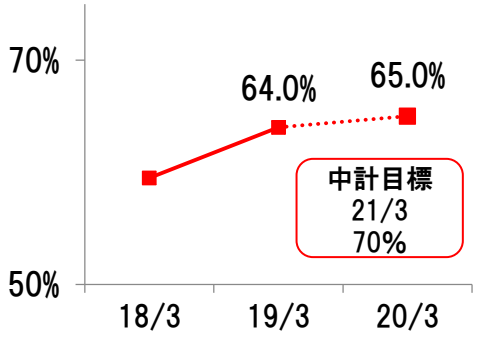
役席者に対する女性の比率	
19/3	21.1%
21/3（中計計画）	25.0%

働き方改革の取り組み

制度休暇の拡充

✓年間３日間の増設
✓時間単位での有休取得制度

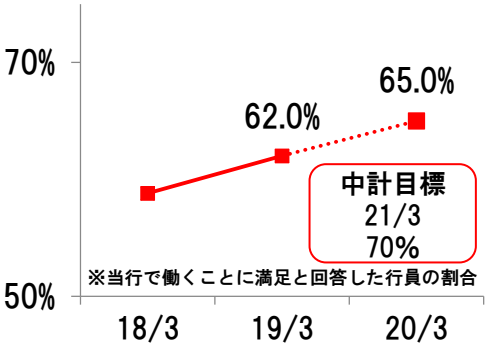
有給休暇取得率



長時間労働の削減

✓就業時間の見直し等により、
労働時間管理を強化

従業員満足度調査（※）



女性活躍ﾊﾟﾜｰｱｯﾌﾟ大賞
奨励賞
（公益財団法人 日本生産性本部）

ｲｸﾒﾝ企業ｱﾜｰﾄﾞ2018
両立支援部門 特別奨励賞
（厚生労働省）

構造改革

■聖域なき改革により、顧客接点の拡大と生産性向上へ

	2019/3	2020/3	中計期間中
	捻出	再配置	
業務改革・デジタル化 ➢業務フロー見直しによる効率化やお客さまの生産性の向上 ➢店頭業務のデジタル化やＲＰＡによる本部業務自動化	業務時間削減 12万時間	人員配置の見直し キャリア変更支援 業務のシフト	営業人員２００人の創出
店舗・営業体制の見直し ➢エリア制の導入や店舗内店舗による拠点の集約	店舗内店舗（１拠点） エリア制導入（5エリア） 昼休み導入（2拠点）	エリア制拡大（5エリア追加） 昼休み導入店舗拡大（9拠点追加）	

Ⅲ．企業価値の向上に向けて

資本政策

■健全性を維持しつつ、安定配当と機動的な自己株式取得で還元

資本政策の基本方針

銀行業の公共性に鑑み、健全経営と内部留保の充実に努めるとともに、ステークホルダーへの適切な利益配分を実施

	18/3	19/3	20/3（計画）
1株当たり配当金	22.00円	22.00円	22.00円
配当性向	23.9%	27.5%	26.9%

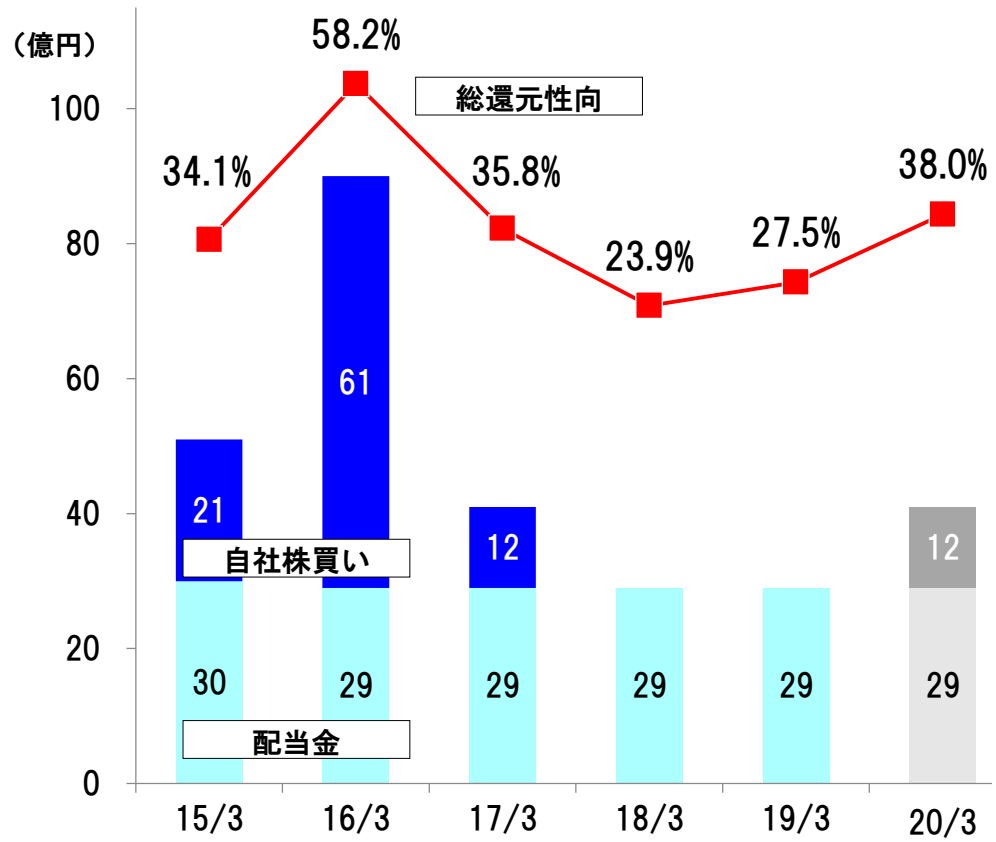
※2018年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で併合を行っております。1株当たりの配当金については、株式併合後の株式数で算出しております。

＜2019年5月31日＞

普通株式5,000,000株を消却

（発行済株式総数に対する割合3.47%）

株主還元額と総還元性向



※20/3期については、2019年5月10日発表の自己株式の取得価額の上限額にて表示

ＥＳＧ・ＳＤＧｓ①（環境）

■環境活動へ積極的に関与

Ｅ（環境）

アルファバンクの エコプロジェクト

ご賛同いただいたお客さまの定期預金の満期案内の発行を止め、紙資源の節約。１人に対し、年50円をちば環境再生基金へ寄付

お客さまが当行でPay-easyを利用して、税金や各種料金をお支払いいただいた場合、１件につき5円をちば環境再生基金へ寄付

環境配慮型の商品

エコ住宅ローン

リフォームローン
（省エネリフォーム金利応援）

千葉大学×京葉銀行 ｅｃｏプロジェクト

2017年より産学連携のプロジェクトをスタート。取引先企業への環境認証取得支援や学生発案の環境貢献企画を実践

「都市鉱山発掘プロジェクト」

小型家電の回収ＢＯＸを当行千葉市内の10店舗へ設置

「Chibaクリーンアクション」

学生・行員・地域住民共同で館山の沖ノ島海水浴場の清掃活動を実施

2019年3月、本プロジェクトの「2018年度実績報告会」が行われ、当行熊谷頭取へ学生から活動報告がされました

ＥＳＧ・ＳＤＧｓ②（社会・地方創生）

■金融機関として、地域活性化へ貢献

Ｓ（社会）

香取市佐原における 観光による町おこし

佐原地区の「北総の小江戸」と呼ばれる町並みを代表とする観光資源を活かした地域振興を支援

2015.9　「佐原江戸優り観光活性化ファンド」を設立

2017.2　ファンド出資第１号案件（古民家宿泊事業者）

2018.3　古民家ホテルオープン

2018.11～2019.4　古民家ホテルが10棟へ拡大

2019.4　京葉銀C＆Cがファンドの運営開始

浦安市における 医療・介護による町おこし

2018年3月に、浦安市等との協定に基づき、病院を中核とした「地域包括ケアシステム」の拠点が完成

隣地のシニア向け分譲マンション（2020年3月完成予定）などへの支援を継続中

県との 災害協定の締結

千葉県と地元地銀３行で協定を締結。災害時の支援活動や情報提供、平常時の防災啓発活動等で連携

いすみ市における 地域活性化に向けた 官民連携

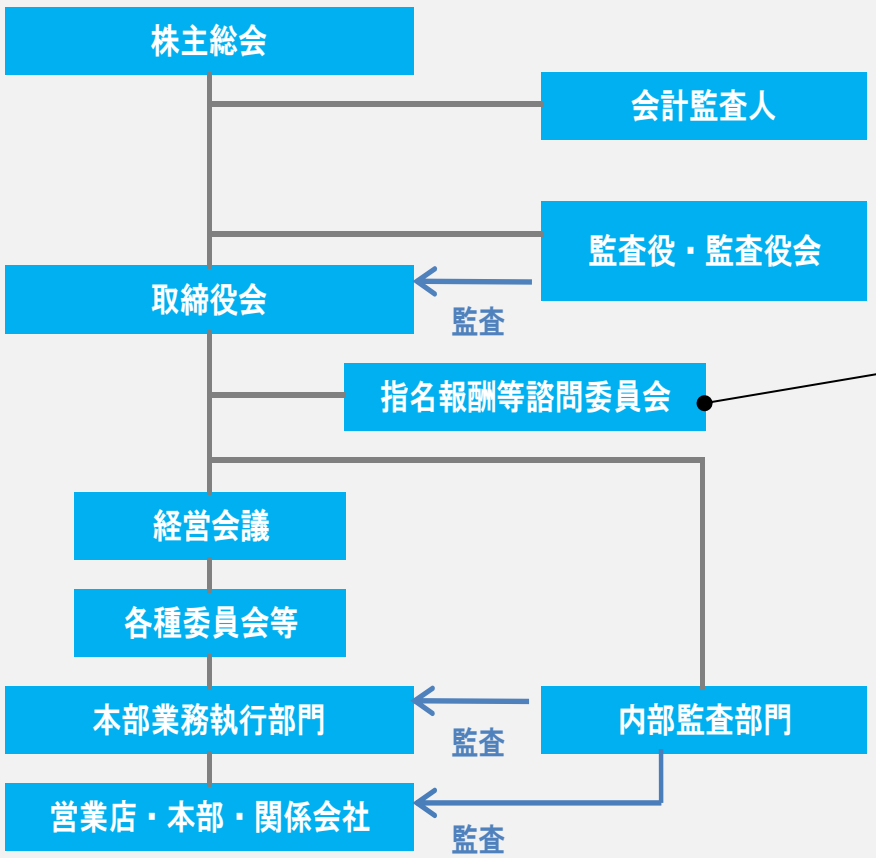
2019年5月、いすみ市・ＮＴＴ東日本と連携協定を締結。今後「まちづくり会社」を設立し、ＩＣＴを活用した地域活性化を推進

ＥＳＧ・ＳＤＧｓ③（ｶﾞﾊﾞﾅﾝｽ）

■指名報酬等諮問委員会の設置により、さらなるガバナンス強化

G（ガバナンス）

ガバナンス体制図



取締役・監査役の体制

	人数	うち社外
取締役	９名	３名
監査役	５名	３名

指名報酬等諮問委員会の設置

目的	手続きの公正性、透明性、客観性の確保
構成	取締役頭取 独立社外取締役
委員長	互選により選定
審議事項	①取締役・監査役の選任、解任 ②代表取締役の選任・解任 ③取締役・監査役の報酬限度額 ④各取締役の報酬 ⑤その他経営上重要な事項で委員長が必要と認めた事項

Ⅳ．第１８次中期経営計画

第１８次中期経営計画の概要

確かな“きずな”を、未来へ。
京葉銀行

第１８次中期経営計画

α　ACTION　PLAN　2021　「さらなる飛躍」

基本方針（スローガン）	「お客さま・従業員の満足度No.１の銀行」
計画期間	２０１８年４月　～　２０２１年３月（３年間）
基本戦略	１．お客さまに寄り添った営業の実践　／　行動
	２．オムニチャネルの構築　／　サービス
	３．全従業員が活躍するﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ集団への変革　／　人財
	４．ローコストオペレーションと利益拡大　／　体制

計数目標	当期純利益	役務取引等収益	ＯＨＲ	預金残高	貸出金残高
	１５０億円	１５０億円	６０％程度	５兆円	４兆円

質の高いｺﾝｻﾙﾃｨﾝｸﾞの実践により、お客さま・当行ともに豊かに

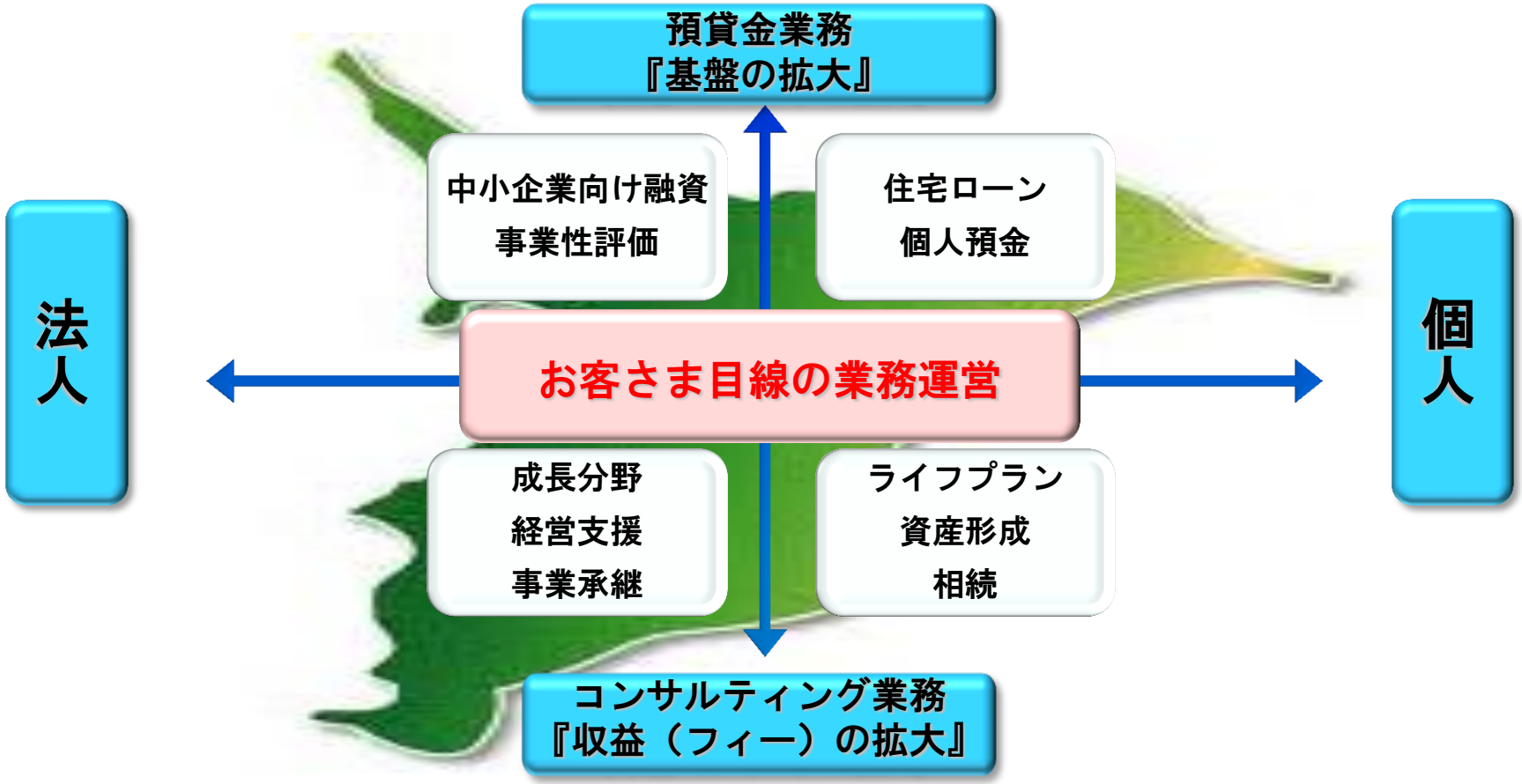
目指す銀行像	お客さまに信頼と利便性、高い満足度を提供する魅力のある、活力あふれる銀行

主要計数の進捗

主要計数	第18次中期経営計画		
	19/3 実績	20/3 計画	21/3計画 （中計目標）
当期純利益	105億円	107億円	150億円
役務取引等収益	108億円	109億円	150億円
ＯＨＲ	66.44%	68%	60%程度
預金残高	4.5兆円	4.6兆円	5兆円
貸出金残高	3.6兆円	3.7兆円	4兆円

経営方針の基本スタンス

■需要旺盛な千葉県マーケットのもと、業容と収益の拡大へ

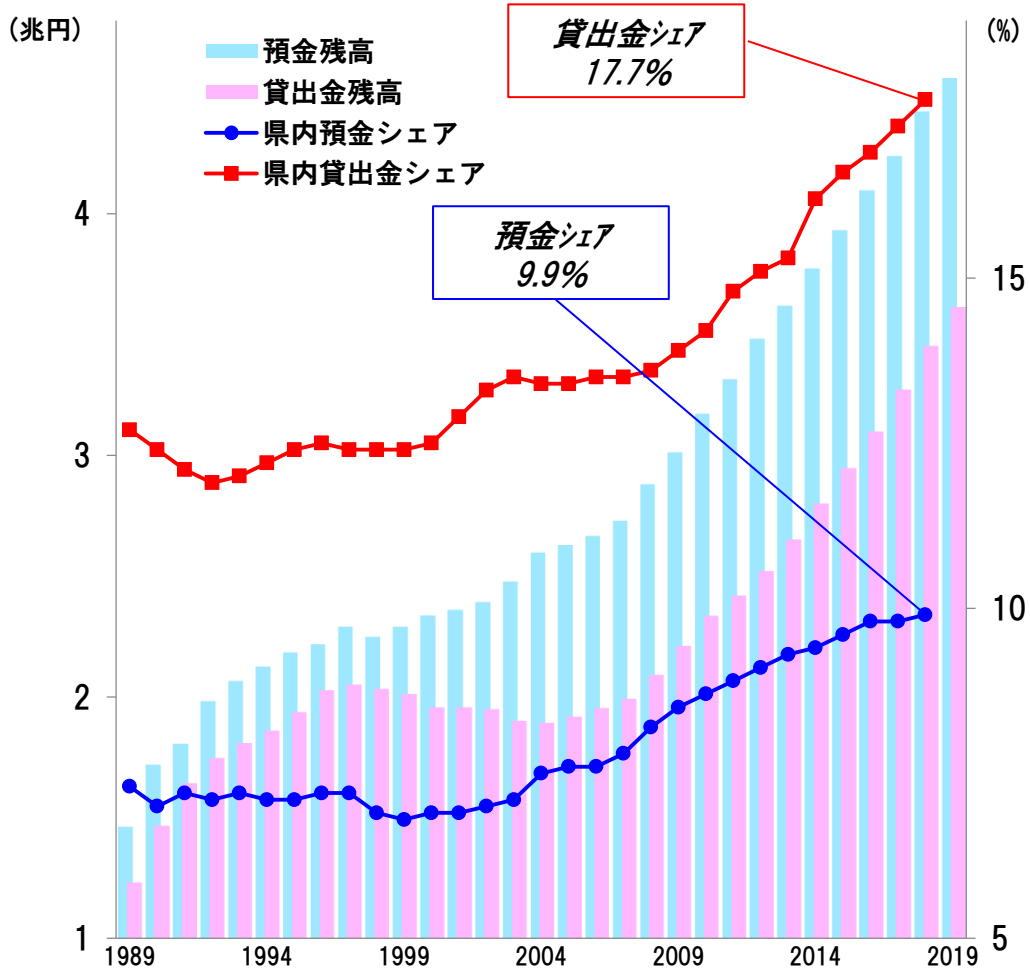


オムニチャネル戦略	ﾛｰｺｽﾄ･ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ	働き方改革
安心・便利・快適 印鑑レス・通帳レス・ﾍﾟｰﾊﾟｰﾚｽ	業務改革の推進 ﾌｨﾝﾃｯｸへの対応	ダイバーシティ キャリア開発

京葉銀行の強み

■ローコスト資金の吸収と住宅ローン・中小向け貸出でシェアを拡大

預貸金残高と千葉県シェア（普銀転換後）



出所：金融ジャーナル
各年3月期

預金の10年間推移

（億円）

	預金			
		うち個人預金		
			うち給与先	うち年金先
2009/3	30,143	25,209	4,257	7,491
2019/3	45,584	35,818	5,880	12,681
（増加率）	51.2%	42.0%	38.1%	69.2%

貸出金の10年間推移

（億円）

	貸出金			
		うち中小企業等向け		
			うち住宅	うち中小
2009/3	22,131	18,222	7,450	10,297
2019/3	36,133	29,602	14,618	14,128
（増加率）	63.2%	62.4%	96.2%	37.2%

京葉銀行のコミュニケーションシンボル

「α」の文字が描く重なりと上方へ伸びてゆくラインは、
人と人との“きずな”と、そこを出発点に無限に伸びてゆく未来をあらわしています。
コミュニケーションネームの「アルファバンク」は、
“人とのきずなを大切に、無限の未来を切り開いてゆきたい”
“常に皆さまにプラスアルファを提供し続ける銀行でありたい”
そんな京葉銀行の思いをあらわしています。

＜本資料に関する照会先＞

株式会社　京葉銀行　経営企画部

ＴＥＬ：０４３－３０６－８０６１

本資料には将来の業績に関わる記述が含まれていますが、こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、
リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。
また、本資料は情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券を推奨するものではありません。